

平成25年3月26日

山武市長 椎名千収様

成東駅南側周辺まちづくり協議会

成東駅南側周辺まちづくりに関する提言

成東駅南側周辺まちづくり協議会は、これからの成東駅南側周辺のまちづくりに関し、現在抱えている課題の克服と今後進めていくべき方向性を示すべく意見やアイデアを出しあい、協議を重ねて参りました。

山武市は、平成12年をピークに合併以降も人口減少が続き、高齢化も25%を超えており、既に4人に1人が高齢者となっている状況です。

また、成東駅前では、朝夕の混雑への対応や歩行者の安全性の確保が十分ではなく、かつての駅前商店街はシャッターを閉ざしている状況です。

成東駅南側周辺まちづくり協議会は、このような状況で、成東駅南側の駅前広場及び駅前線の整備事業に併せ、魅力と賑わいにあふれ、快適と感じられる街並みの創出を目指すことを目的に、市民が中心となり創設されたものです。

このたび、平成24年度に協議を重ねた結果としまして、成東駅南側のまちづくりのテーマを提言書に取りまとめましたので、提出いたします。

つきましては、市におかれましても、この提言を踏まえた事業の実現に努められるよう、要望いたします。

第1回 成東駅南側周辺 まちづくりに関する提言

～まちづくりの理念・基本方針～
(平成24年度提言)

目 次

第1章	はじめに・・・・・・・・・・	1
第2章	提言・・・・・・・・・・	2
参考資料	まちづくりニュース・・・・・・・・	5

平成25年3月

成東駅南側周辺まちづくり協議会

第1章 はじめに

山武市の人口は、平成12年をピークに、平成18年の4町村の合併以降も人口減少が続いており、平成22年の国勢調査によると、前回からの減少数は県内3番目と高いものとなっています。

また、高齢化の進展も、平成22年の国勢調査における高齢化率は25.4%となっており、4人に1人が高齢化しているという状況です。

一方、成東駅南側周辺については、成東駅の鉄道乗車人員が年々減少の傾向にあり、平成7年の平均乗車人員から約2割も減少している上、バス等の公共交通の乗換の不便さから、交通結節点としての機能も低下しつつあることと併せ、かつての駅前商店街もシャッターを閉ざすなど、駅前における賑わいも失われつつあり、市の玄関口としての機能も低下しているところです。

このような状況で、いよいよ成東駅南側の駅前広場及び駅前線の整備事業が開始されることとなりましたが、この事業に併せ、魅力と賑わいにあふれ、快適と感じられる駅周辺の街並みの創出を目指すために成東駅南側周辺まちづくり協議会が創設されました。

創設元年となる平成24年は、同年10月から平成25年3月までの間に、計6回の協議会を開催し、成東駅南側のまちづくり理念・基本方針を議論してきました。

今年度の検討成果として、成東駅南側周辺まちづくりのテーマを設定しましたので、今後のまちづくりの方向として提言するものです。

市当局におかれましても、この提言書を計画に取り入れ、事業の着実な実現に努められるよう、要望いたします。

1. 【成東駅南側まちづくり協議会の構成】

成東駅南側まちづくり協議会は、まちづくりを考える一般市民、地権者及び関係権利者、地元区長、観光協会、商工会及び千葉大学教授等の有識者から構成されております。

当協議会は、原則として、市民全員を会員として考えており、協議会に常時参加していただく常任会員と、適宜、議論をサポートしていただく一般会員から成り立っています。

会議は原則公開とし、成東駅周辺の将来を考えている方ならどなたでも参加できる組織としております。

2. 【協議会検討経緯】

平成24年度は6回の協議会を開催し、「まちづくりの方針（テーマ）」の検討を進めました。

回数	議題
第1回 (平成24年10月28日)	● 市民として大切にしたいと考えている事項 (風景・観光・歴史・地域の特色など)
第2回 (平成24年11月17日)	● 山武市・九十九里地域という視点の中での魅力・活用
第3回 (平成24年12月15日)	● 館山駅・久留里駅周辺の現地視察
第4回 (平成25年1月20日)	● 駅周辺地域における具体的なあり方(駅前広場・駅周辺景観・魅力形成など)
第5回 (平成25年2月17日)	● 千葉大学からの「山武らしさ」の調査報告 ● まちづくりのテーマ(案)の検討
第6回 (平成25年3月10日)	● まちづくりのテーマの決定 ● 本年度の協議会のまとめ

第2章 提言

【まちづくりの理念（テーマ）】

ホッと  さんむ
ふるさと九十九里の玄関

市民のつながりにより

人々の交流による 賑わい

山武の 魅力・観光

山武の歴史・文化を伝える 景観

住む人、訪れる人への やさしさ

を生み出す空間をめざします。

1. 賑わい

地域の方々や通勤・通学者が立ち寄り、交流することができる施設やお祭りなどによる賑わいを生み出せるような駅前をめざします

2. 魅力・観光

山武市内の各地域の魅力・観光や日常の情報も発信できる情報発信拠点をめざします

3. 景観

山武の歴史・文化の雰囲気を感じられるような街並み景観をめざします

4. やさしさとゆとり

誰もが安全で、利便性を感じられ、時間にもゆとりを感じられる駅前空間の確保をめざします

テーマ策定の経緯

このテーマ策定にあたりましては、山武（成東駅前）に、人口減少、少子高齢化の進展、賑わいの創出などの問題が多々ある中で、ふるさと山武を愛し、何とかしたいと考える会員が集まり議論を進めてきたものです。

今回、「**ホッと**  **さんむ** ふるさと九十九里の玄関」というテーマを設定した背景には、成東駅前にきらびやかな変化を求めているのではなく、これまでの山武（成東）の歴史、文化、風土、生活に誇りを持っていることについて共通認識を持つことができたことによるものです。

近年の駅前の整備は、一般的には、どこも画一的なものとなりつつあるといわれています。

私たち協議会員は、毎日の帰宅者だけではなく、山武を離れた方が再び山武（成東駅）におりたった時にも、他の駅前とは違う郷愁を感じられる「ふるさと九十九里の玄関」として、成東の風景が感じられる空間を創造したいという思いを持ち、以下の4点への取り組みが必要だと考えました。

1点目は、現在の成東駅は、主に通勤・通学者が通過する場となっておりますが、莓狩り等に訪れる観光客など来遊者も利用する環境であることから、そこに地域の方々を加え多くの人々が交流や情報交換をできる機会、仕組みづくりをしていくことが必要と考えております。

2点目は、外部にPRできる「さんむの魅力・観光」など地域資源が多くあるにも関わらず、情報発信が不十分な現状であり、地域資源の再確認とともに外部への情報発信を行う場や仕組みづくりも必要と考えております。

3点目は、駅前から市内に通じる景観については、山武の歴史・文化の雰囲気を感じられるよう、ほっとする成東の街並み景観の創出をしていくことが必要と考えております。

最後に、不満に感じている自動車の混雑、歩行者の安全確保、公共交通の乗換の不便さを改善し、今後、求められるユニバーサルデザイン、景観にも対応した空間を造ることが必要と考えております。

このような意味で、「**ホッと**  **さんむ** ふるさと九十九里の玄関」をテーマとし、今後の成東駅南側のまちづくりを行うことを提言するものです。

参考資料 まちづくりニュース

掲載は省略させていただきます